

長野の林業

No.
384

特集

狩猟者確保の取組
主伐・再生林特集（第2回）

トピックス

- ・長野県きのこ品評会開催
- ・木曾地域での林業・木材産業の人材育成の取組み
- ・森林・林業・木材産業の振興に向けた知事への施策提言

コラム

県森連だより

- ・林業士リレーコラム



エアソフトガンを使って射撃姿勢や照準調整を学習



狩猟への思いを胸に、各地から集った参加者



フィールドに出て本物のくくりわなを仮設し、わなの設置方法を学習



狩猟免許取得から狩猟を行う手続きの解説など、座学も充実

長野県では有害鳥獣の捕獲を担う狩猟者の確保・育成のため、狩猟に興味がある方を対象とした講座などを行ってきました。これまでの県の取組が民間旅行会社で企画するツアーに結び付き、今年度は約60名の方が狩猟について深く学びました。



長野の林業
フルカラー版



長野県の野生鳥獣による農林業被害額は、年間約7億3千万円(令和3年度)にのぼり、10年前と比較し半減したものの、依然として多くの被害が発生しています。また、ニホンジカの場合は、希少な高山植物や植生への食害など、自然生態系への影響も現れています。

これらの問題を解決するために、環境整備、防護柵設置、そして捕獲といった複合的な対策が必要です。その中でも、捕獲を担う狩猟者は減少傾向かつ高齢化が進んでおり、将来の捕獲の担い手確保と捕獲技術の継承が課題です。このような課題解決のため、県では狩猟者の確保・育成に取り組んできました。

狩猟者の確保・育成は、平成26年度から本格的に開始しました。当初はハンター養成学校として、県内在住で狩猟を始めたいと思っっている方を対象に、県内猟友会員の方々に講師として講座を実施してまいりました。この講座を5年ほど継続し、一定の狩猟者確保の成果が見られた令和元年度からは、狩猟をより広い層の人たちに知ってもらうことを重視した



銃で鹿を狙うとき、どこを狙えばよいか、急所の位置をぬいぐるみを使って解説します。

講座実施にかじを切りました。

悩んだことは講師の人選です。狩猟の必要性に加え、狩猟の楽しさ、野生鳥獣と人との関係、そして実践に役立つ技術を系統立てて教示でき、かつ受講者が楽しめるエンターテイメント性のある講座を運営できる方が必要でした。そこで出会ったのが猪鹿庁合同会社様です。

長野県の狩猟者確保の取組とねらいを伝えたとこら快諾いただき、講座運営をお願いするようになりました。令和元年度は約50名の県内在住者の方が講座を受講しました。また、平成28年から県内猟友会員の皆様にご協力いただいた、OJT研修へ参加する受講生も増加しました。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、集合型の講座実施が難しい状況でした。ここで力を入れたのが情報発信です。外に出ることができないアウトドア層をターゲットに、狩猟というある意味で究極の野外活動を伝える方針でした。また、狩猟はただ野生鳥獣を捕獲する行為ではなく、野生鳥獣による農林業被害を防ぐという、社会的意義も伝える必要があります。

まずは簡単に情報をキャッチできる、Instagramでの情報発信を積極的に行いました。また、狩猟の情報発信のノウハウもある猪鹿庁様と一緒に、狩猟の歴史や文化、狩猟に役立つギア紹介の動画も作成し、YouTubeで公開しました。これらの取組で、狩猟が果たす意義や長い歴史を持つ奥深さ、獲物の捕獲に役立つ知識などを、コロナ禍においても多くの方々に伝えられたと思います。



エアソフトガンを持って銃の構え方を学びます。

令和3年度になり、コロナの影響から首都圏から地方へ移住する人が増加するなど、社会情勢が大きく変化しました。そして、東京都では受験が抽選になるほど狩猟免許取得希望者が増加しているという情報もキヤッチ。首都圏からアクセスの良い長野県は、首都圏在住者の狩猟の場となる可能性があり、県内の狩猟人口確保、野生鳥獣被害軽減の新たな担い手になると考えました。

県独自で県外の参加者を募ることが難しい中、ご協力をいただいたのがアルピコ長野トラベル株式会社様です。狩猟者確保の課題と必要性についてお伝えし、講座実施について相談したところ、県の理念に共感いただき、狩猟者確保のためにツアー造成に協力いただけることとなりました。

そして、アルピコ長野トラベル様とタイアップし、県内在住者に加え首都圏在住者も参加できるツアー商品として講座を実施しました。旅行会社のツアーという形式で宣伝したことで参加のハードルが下がり、参加者の期待値が向上したといった感想が聞かれました。また、長野県在住者だけでなく首都圏で狩猟に興味があっても学ぶ機会がない

方も、手軽に参加できました。参加者からは「ますますハンターになりたいと思った」「鹿の解体を通じて食肉について学べた」「同じ思いを持つ仲間と出会えた」など、ほとんどの方がとても満足し、狩猟について学ぶことができました。また、今後もこのような取組を継続してほしいと言う、心強い感想もいただきました。



講座では実際にシカを解体。命との向き合いの意識が変わったという声もありました。

令和4年度からは、この取組の継続性を最優先し、猪鹿庁様とアルピコ長野トラベル様が協同で実施するツアーとなり、県は協力という立場で関わるといふ体制で、約60名の方が参加しました。この取組が行政主体ではなく民間企業で行われることは、狩猟者の存在や野生鳥獣の課題などが、多くの方々に理解されつつある証拠だと思います。今まで取り組んできた、狩猟者確保・育成や情報発信の成果の1つと言えるでしょう。

また、参加者とのコミュニケーションを通じ、新たな課題も見えました。新規狩猟者が、どの地域でどう狩猟を始めればいいのかということ。県としては、このツアーを通じて狩猟への意欲が高まった皆様と、長野県内の猟友会とのパイプを繋ぐ必要があると考えています。

ここまでの成果にできたのは、関係者の皆様のおかげです。過去の参加者からも、「講座で学んだ捕獲方法を実践して、最初の1頭を捕獲できた」、「実際に長野県へ移住し、猟師になる計画を立てている」といった声を聞くことがあります。狩猟への意欲を格段に引き上げる講座を実施いただいた猪鹿庁様、狩猟という難しい面があるものをツアーとして実施いただいたアルピコ長野トラベル様をはじめ、この取組にご協力いただいた皆様とともに歩めたことに感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。



猟具のメンテナンスも大切です。くくりわなの補修方法も学びます。

【鳥獣対策室】

主伐・再造林
特集(第2回)

新しい林業の実現に向けた国有林の取組

県内の人工林の多くが伐採適齢期にあることから、主伐による素材生産と、主伐後の再造林を確実に進め、森林資源の持続的な管理・利用を図る必要があります。主伐・再造林に関する取組状況についてお届けする特集全3回シリーズ(第1回はNo382参照)の第2回です。

国有林では、伐採から造林の功程全体が最適化されるよう施業技術の開発・実証と施業体系の整備を進め、事業への適用を図ることで、作業の効率化や資源の有効活用に取り組んでいます。ここでは、その事例について紹介します。

I 伐採・造林一貫作業システムの構築

中部森林管理局では、平成25年度から同一の事業者が素材生産事業の伐採から造林事業の地拵え・植栽までを一体的に実施する「伐採・造林一貫作業システム」を推進しており、令和3年度は、長野県と岐阜県の各森林管理署において、合計44箇所、102haの国有林に本システムを導入しました

中部森林管理局における伐採・造林一貫作業システムの実績

年度	箇所数	面積(ha)
H25	1	4
26	2	6
27	7	22
28	9	46
29	25	74
30	18	49
R元	31	71
2	26	59
3	44	102



本システムの導入により、次のような作業の効率化が図られました。

- ① 伐採・搬出に利用した機械の活用による各作業の効率化
・グラップル等を活用した末木・枝条等の整理による地拵え作業の軽減
・フォワーダ等を活用した苗木やシカ防護柵の運搬作業の軽減

- ② 伐採後の下層植生の繁茂が抑制されることによる地拵え(刈払い)や下刈り作業の軽減
なお、植栽適期が長いコンテナ苗を活用することにより、裸苗よりも伐採時期を選ばずに一貫作業を実施することが可能となります。

また、コンテナ苗の植栽に高度な技術は不要であることから、新規就業者等でも作業が可能となっています。

II 末木・枝条等のバイオマス利用

伐採・造林一貫作業を進める上で全木集材が推進されていますが、そこで発生する末木・枝条等は

D材と呼ばれる、その多くは未利用のままとなっていました。

本曾森林管理署南木曾支署では、これらD材の活用を検討したところ、運搬コストの削減等により、現在、その多くについて販売を実現しています。

具体的には、林道脇等に積み上げられた各事業地にあるD材を、購入者は、自ら設けた国道沿いにある中間土場に運搬・集積した上でその場でチップ化し、直接発電所等に運搬することで、運搬コストを削減し収益化を図っています。

中間土場を設けない場合、空隙率の高いD材を、山土場から約130km離れた施設まで運搬しチップ化した上で、約20km離れた発電施設まで運搬する必要がありました。中間土場を設置することにより、D材の運搬を山土場から中間土場までの約15kmに短縮でき、中間土場にてチップ化することにより、約130km離れた発電施設へ直接、搬入することが可能となりました。

その結果、令和二年度の実績では、単純計算で運搬コストが1tあたり2000円削減できることが確認できました。

今後も新しい林業の実現に向け、様々な取組に挑戦していきたいと考えています。

【中部森林管理局】

造林緑化係長のこれから「き」になる話 主伐・再造林の推進に向けて

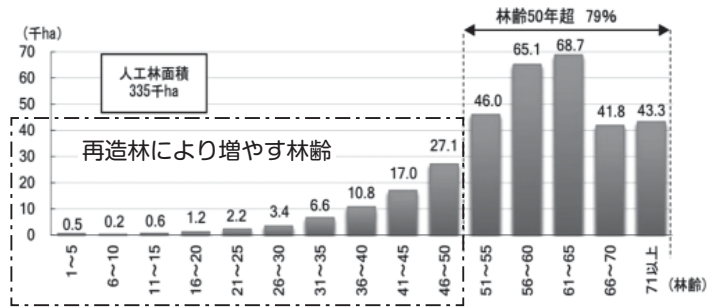
長野県における造林のピークは、昭和28年でカラマツを主体に一年間に1万7千5百ヘクタールの植栽を行っています。これは、戦中・戦後の木材需要に因應するために伐採した跡地の再造林や拡大造林によるものです。今まで、県内の多くの森林は、間伐を中心とした育成を図る時期でした。

しかし、長野県の民有林人工林の8割が50年生を超え「これから」は、成熟した森林を収穫し、林業・木材産業の振興と2050ゼロカーボンに向け森林の二酸化炭素吸収機能の増加の両面から若い木を増やすための再造林を行い、次の世代に豊かな森林資源を引き継ぐことが重要になっていきます。

「き」になる話

これから、50年、80年先の未来に向けて、森林資源を活用し、どのような森林を造るかを真剣に考え実施することが重要になってきています。未来のことを予想し考えることは難しいことですが、現在の森林を造るために、私たちの先輩がどのような「思い」や「技術」により、苗木を植え・育ててきたかが「長野の林業」のバックナンバーを改めて読んでみると伝わってきます。

例えば、「カラマツ種子の結実促進と需要の動き」では、昭和32年以降凶作が続いている中で、カラマツの郷土として種子の需給が深刻な課題となり、種子の安定供給に向けて、樹幹を環状にはく皮して結実促進の方法を紹介した記事では、優良なカラマツの種を確保することの重要性を感じました。



出典：長野県林務部業務概要

「考えなおそう春の植え付け」では、当時の造林の担い手は、農家の方が主で春の農繁期に植え付けを行うと労働力不足から適期を逃すため、秋に植え付けを行う方が春先の成長が良いことや労働力の確保の点から利点があるとの記事では、労働力の確保と施業方法の見直しの重要性を感じました。

県外でも様々な取り組みが行われています。新型コロナウイルス感染症の影響により、先進地の県外視察は困難でしたが、感染対策に気を付けながら令和4年7月に2年ぶりに和歌山県に視察に行くことができました。

和歌山県では、索道を活用した主伐・再造林が進んでおり、特徴的な取組として木を伐らない林業の会社 株式会社 中川は、主伐後の地植え、植栽、獣害防除、下刈り等の保育作業を専門で行っています。

- 主伐を行う素材生産事業者と連携して森林経営計画を策定し事業地を確保
 - 大型ドローンを活用して獣害対策用資材や苗木運搬の省力化
 - 年間を通じ保育事業地を確保
- また、和歌山県の造林担当者からは、備長炭の生産を生業とする方が増えており、原料となる「ウバメガシ」の植栽が年々増えているとお聞きしました。

おわりに

これから、森林の若返りのための主伐・再造林を重点的に取り組む必要があり、「苗木の種の安定的な確保」「優良な苗木の生産」「一貫作業システムによる効率化」「効率的な植栽方法」「下刈りの省力化（機械化等）」「獣害対策」等の様々なことが「き」になりますので機会があれば「長野の林業」に投稿したいと思えます。また、新しい情報や「き」になることがありましたら造林緑化係にご連絡ください。



昭和38年(1963年)
「長野の林業」表紙
植栽前の打合せ風景

令和4年度長野県きのこ品評会を開催しました

令和4年度長野県きのこ品評会が、生産量日本一を誇る長野県のきのこ生産技術及び品質の更なる向上を図ることを目的として、信州きのこ祭り推進協議会の主催により、10月6日に長野市東北公民館において開催されました。今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から一般展示を行わないなど一部縮小してではありますが、きのこに関係する多くの機関のご協力を得て、開催することができました。

当日は、地方予選に出品された246点の中から9品目95点が本選会場に持ち込まれました。出品物は栽培技術の高さがうかがわれる、素晴らしいものばかりであり、「きのこ王国」長野県の生産者および関係者の日頃の努力、実力を実感することができました。審査は、3品目の区分に分けて、各審査基準に従い厳正に行い、農林水産大臣賞2点他19点を選出しました。受賞式は、11月24日長野市ホテル信濃路で行われます。

【信州の木活用課】

長野県きのこ品評会入賞者一覧【一部抜粋】

受賞名	品目	氏名	住所
農林水産大臣賞	えのきたけ	有限会社マルヨ	中野市
	ぶなしめじ	坂田 毅彦	長野市
長野庁長官賞	えのきたけ	児玉 勝成	山ノ内町
	ぶなしめじ	涌井 正弘	中野市
	しいたけ・なめこ等(まいたけ)	株式会社マシュデート	中野市
長野県知事賞	えのきたけ	掛野 早苗	長和町
	ぶなしめじ	伊藤 琢水	下條村
	しいたけ・なめこ等(くるあわびたけ)	矢岡 太一	中野市



審査風景

森林保険

近年、毎年のように過去に例のない自然災害が発生しています。

主伐期を迎えた森林 再造林地に安心を
ご加入はお近くの森林組合へ

※1ha 加入時の例

樹種	林齢	加入年数	保険金額(補償額)	保険料(掛け金)
カラマツ	1年生	1年	800,000円	3,432円
ヒノキ	51年生	5年	4,500,000円	65,205円

TEL:026-226-2504 長野県森林組合連合会



林業士

このコーナーでは、
林業士の活動状況など
をリーレー形式でお届け
していきます

すぎ、ひのき等針葉樹を植林して
いました。

きのこ栽培に必要な原木の調達
も、ある程度は自分で行っている
ので、伐採や材の搬出も行い、
きのこ栽培とその販売に加え、伐
採等の森林作業の二つが主な仕事
となります。

松本林業士会会長の高橋鉄則で
す。合わせて県林業士会の副会長
も務めております。私の生業とし
て、父親の代から原木でのきのこ
栽培、販売を行ってきました。林
業の本流である木材生産からみれ
ば、特用林産と言われるところに
なります。

私が林業士を目指していた頃
は、林業士の認定に3年間の研修
が必要とされており、3年目
は現地研修があり研修先の根羽村
の指導林家に1週間泊りで、原木
なめこ栽培の研修でした。

今思えば父が原木栽培できのこ
生産を始めた当時は、農村の冬季
の収入確保が課題でしたが、拡大
造林が行われ、雑木も多く切り出
されたため、きのこ栽培に必要な
原木も入手しやすい時代でした。
父もきのこ用に雑木を切り出した
後、山林所有者の求めに応じて、

私の話が長くなりましたが、現
在私が活動している松本林業士会
は、長野県林業士認定者のみが会
員の集まりで、長野県林業士会の
松本支部として発足しました。発
足当初は当時の松本地方事務所
事務局がありましたが、今は県の
機関から事務運営が離れ、会の運
営、事務作業など全て松本林業士
会会員で行っています。年1回の
総会と、会員向けですが研修会を
松本林業士会の企画で行っていま
す。過去には会員のつながりから
講師をお願いして開いてきまし
た。

今年には林業総合センターに導入
された伐倒訓練機を使い、地域や
所属する集まりで、チェンソー講
習を開く際に指導する側として
知っておきたい知識、技術をテー
マに、会員同士で研修しました。
ここで研鑽を積んだ事は、会員そ

それぞれの地域や職場で生かされ、
地域の森林作業の安全、効率化に
生かされていきます。

この研修会の中で得たことの
一つとして、当日研修講師を務めた
橋元林業士から、伐倒方向に正確
な受け口を作る事が重要との指導
がありました。橋元林業士の事業
体でこの受け口の作り方を新人の
作業員に指導したところ、かか
り木になる事が減り、その結果、か
かり木の処理にかかる時間が無く
なったことにより、作業の効率があ
がり安全性も確保されたという
報告がありました。今、林業現場
に求められる作業の安全と効率を



令和4年松本育樹祭 地元の小学生と
作業の合間に木の葉でお面作り

同時に達成する方法の一つだと思
います。

私の住む朝日村でも、松くい被害
が広がり、被害木の処理などの
対応に苦慮しているところだ
が、研修会などで習得したことを、
地域の森林作業に生かしていき
たいと思います。

プロフィール

1960年 朝日村 生まれ
長野県林業士会副会長
松本林業士会 会長
中学校卒業後、実家のきのこ生産を
受け継ぎ、高橋きのこ園として、原木
しいたけ栽培販売きのこ用原木生産販
売を行う。
昭和57年3月 長野県林業士 認定
平成24年10月 指導林業士 認定



林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動
する方を増やし、林業の活性化を図る
ために昭和48年から長野県が認定して
いるもので、県下各地で「地域林業の
中核的人材」として活躍しています。

木曽地域での林業・木材産業の 人材育成の取組みについて

木曽地域では、林業・木材産業の振興を図るため、平成30年に関係者による「木曽地域木材産業振興対策協議会」を設置し、地域材の「高付加価値化に向けてのロードマップ」を策定し、産・学・官が協働し様々な検討を進めてきました。

これらに加え、さらに後継者の育成や、技術の伝承を進め、持続性・発展性の高い地域産業の振興を図るため、本年4月に林業高等学校、上松技術専門学校及び木曽青峰高等学校の教育機関と木曽地域振興局（企画振興・商工観光・林務課）による「木曽地域3校連携推進協議会」を設置し、情報交換や連携の仕方づくりなどを始めました。

8月の会議では、各校の卒業生の進路や地元企業の求人状況などの情報を交換し、今後は各校間での授業や実習等の協力に向けた調整等に取組んでいきます。

また、木曽青峰高等学校では、県教育委員会が進める高度な産業教育（インターンシップなど）を推進する「未来の学校構築事業」にも取組み、地域の企業の皆様とともに地域の担い手づくりを進めており、今後は、この取組みなどとも連携しながら、地域の担い手確保に向けた取組を進めていきます。



木曽地域振興局による木曽青峰高校生徒の森林関係の地域学習（R4、5月）

【木曽地域振興局林務課】

森林・林業・木材産業の振興に向けた知事への 施策提言の実施

長野県林業振興研究会

長野県林業振興研究会は、森林・林業・木材産業の振興に向けた政策の研究と提言を行うことを目的に、有志の会員により平成29年に設立された会です。

研究会では、毎年施策検討会を行って、長野県に対して施策提言を行っています。令和4年は9月7日に、会員12名が出席し、森林・林業・林産業活性化促進地方議員連盟全国連絡会議会長にも就任した服部会長から長野県阿部知事に直接要望書を手渡し、次の項目について今後の県の施策に向けた提言を行いました。

- 知事・林務部との意見交換では、県と関係団体が連携・協力して検討し取組を進めていく方向性を共有しました。
- 【令和4年度知事要望項目】
- 1 需要に見合った素材生産量の確保と着実な再造林の推進
 - 2 高性能林業機械の導入促進と林業従業者の確保・定着
 - 3 県産材加工・流通・利用の拡大のための対策強化
 - 4 森林づくり県民税の継続と活用事業の充実
 - 5 森林環境譲与税を活用した林業振興の推進

【研究会の構成員】

- 県議会議員
- 服部宏昭（会長） 平野成基
佐々木祥二 宮本衡司 小池 清
丸山栄一 山岸喜昭 石和 大
依田明善 共田武史 大畑俊隆
- 林業関係団体関係者
- 藤原忠彦（長野県森林組合連合会）
宮崎正毅（長野県木材協同組合連合会）
村石正郎（長野森林組合）

ほか4名

お問い合わせ先

☎0266・227・5015

（一社）長野県林業センター内

担当：宮



県と関係団体が連携・協力して検討し取組を進めていく方向性を共有しました。

今後、長野県の森林・林業・木材産業の振



▲Q&Aに答える全森連佐々木参事
事業の隅々に関わる問題であるため、早急な対応
方策の指導が望まれている

当日は新型コロナウイルス感染拡大
防止対策を実施する中で、各森林組
合から28名が参加しました。
全国森林組合連合会の佐々木太郎
参事を講師に、前半は改正電子帳簿保
存法について、後半はインボイス制度
について概要やQ&Aを交え説明いた

インボイス制度
改正電子帳簿保存法に係る
研修会を開催

消費税のインボイス制度が令和5
年10月から施行されること、及び改正
電子帳簿保存法が経過期間を経て令和
6年1月から適用されることから、基
本的な制度の仕組みとその対応につい
て研修するべく、2022年9月6日
に安曇野市のもくりゆう館で「インボ
イス制度・改正電子帳簿保存法に係
る研修会」を開催しました。

改訂電子帳簿保存法では、社会的
に進んでいくペーパーレス化に對して
まずは電子取引の状況を掴むことが重
要という話がありました。
インボイス制度では、森林整備事
業から販売、加工、購買と多岐にわた
る森林組合の事業の中で具体的にどの
ように対応するべきか等の質問が相次
ぎました。
今後の制度適用に向けて、全国の
森林組合系統と連携する中でより良い
対応策を共有していきます。

監事研修会を開催

2022年9月16日、森林組合監
事研修会を開催しました。
安曇野市のもくりゆう館を会場に
新型コロナウイルス感染拡大対策を取
る中で、県内森林組合から22名が参加
しました。

はじめに県森連高田専務から「森
林組合を取り巻く情勢について」の説
明を行い、続いて県森連の森林組合監
査士から「監事監査の基礎」と「監事
監査の実務（業務監査・会計監査）」
について説明を行いました。最後に長
野県林務部信州の木活用課担い手係の
大草素子担当係長から森林組合常例検
査と不適正事案について説明があり、
全ての内容を終えました。参加者から
は昨今のウッドショックや監査実務の
手法などについて多くの質問があり、



▲昨今の森林・林業を取り巻く情勢に関心が
高く、積極的に質問が挙げられた

関心の高さが伺えました。
参加された監事の皆様には、本研
修会で得た知識を今後の組合監査の実
務に生かし、開かれた組合経営に尽力
いただければと思います。

スマート林業の
原点に立ち返るための
研修会を開催

2022年10月24日、安曇野市の
もくりゆう館で「スマート林業の原点
に立ち返るための研修会」を開催し、
県内林業関係者33名が参加しました。

林業現場での省力化やデータの可
視化など近年、スマート林業技術は
日々進歩し、実際に森林組合や経営体
で導入が進んでいる一方、活用し苦慮
したり、機器の選択に悩む声も上がっ
ています。今回、長野県林務部スマー
ト林業人材育成事業の一環として（一

社）日本森林技術協会の大萱直花氏を
講師に迎え、スマート林業の目的意識
を改めて認識し、取組を後押しする内
容で研修が行われました。
講演の中では、スマート林業技術
の導入自体が収益向上など効果を生む
わけではなく、如何に運用できるかが
カギであり、運用にあたる人材の育成、
課題に合わせた目的意識、地域全体で
の合意形成が不可欠であると説明があ
りました。後半ではワークショップを
行い、4人ずつの班に分かれ、10年後
の未来を想像し、今できることを話し
合い、模造紙に書き出してまとめ、発
表しました。
GISデータの拡充やオープン
ソース化、架線集材に替わるドローン
運搬などの技術革新といった、近い未
来の林業の姿にワクワクする参加者の
姿がありました。



▲ワークショップに取り組む参加者
下刈りを遠隔でゲーム化する奇抜なアイデアも



2022
**長野県協同組合
 フェスティバル**

たくさんのご来場
 ありがとうございました！



▲乾椎茸など即売品を手にする来場客
 プロ仕様の林業資材にも興味津々

10月2日に長野市のながの表参道セントラル・スクウェアで「長野県協同組合フェスティバル2022」が開催されました。

長野県協同組合フェスティバルは、長野県内における協同組合間連携の一環として、組合員同士の交流や協同組合の活動を県民の皆様を知っていただくことを目的に、国際協同組合年でありました2012年から毎年開催しています。

しかしながら2019年10月の台風災害やその後の新型コロナウイルスの蔓延により、長野市エムウェーブで開催した2018年を最後に開催できておらず、



▲子どもたちで賑わったコースターづくり体験
 作り方をスタッフに教わり、一生懸命ヤスリがけて仕上げ

4年ぶりの開催となった当日は、澄み切った秋空の下、新型コロナウイルス対策を講じる中、農協や生協、労協など県内の協同組合、長野県社協、被災地復興に取り組む県内外の観光協会、NPO法人、行政ほか合計36ブースが出店しました。

人気の農産物や加工品の販売はもちろんのこと、育児や介護についての体験コーナーや、健康や環境について学べるクイズなども大変賑わいました。

また、会場に隣接する中央通りでは「善光寺表参道秋まつり」が開催され、お神輿やジャズステージなどが盛大に行われたこともあり、それぞれの組合員のほか、立ち寄ってくださった方にご来場いただきました。



▲北信濃産スギ材で作られた「CO屋」
 工夫次第で物置やテントサウナにも活用できる

長野県森林組合連合会では、森林所有者の協同組合である森林組合の事業を動画やパンフレットで紹介すると共に、森林組合購買による林業資材や乾椎茸などの即売とスギ丸太のコースターづくり体験のほか、長野森林組合のご協力で北信濃産のスギ材で作った休憩小屋とテントを設置し、長野県産材の利用をPRしました。

特にコースターづくり体験は多くの親子に参加していただき、木のぬくもりや楽しさに触れていただくことができました。

かつて無い来場者数となり、多くの方々に協同組合の取組を知っていただくことができ、さらなる協同組合運動への注目と期待を感じる一日となりました。



林職協
長野県林業職員協会
林業基本問題研究会
in 根羽村

2022年9月27日、下伊那郡根羽村で長野県林業職員協会の林業基本問題研究会が行われました。
当日は林業職員協会各支部から支部長及び代議員等20名が参加し、根羽村森林組合で行われている取組を視察、意見交換を行いました。



▲主伐現場で根羽村森林組合今村参事から説明を受ける一行
下伊那地域でも近年にない規模の現場で、組合では今後、主伐
再造林に本腰を入れていきたいとのこと



▲農業用トラクターベースの移動式チッパー
素材生産現場でのチップ製造も可能



▲村産のスギやヒノキ材をふんだんに使ってリノ
ベーションが行われた根羽村役場
暖房はすべて薪ボイラーで賄う



▲▶研修ゲームの結果を解説する江越氏
協力パズルは各チームの個性が出て盛り上がった

午前中は、全国森林組合連合会と農林中央金庫が実施している低コスト再造林プロジェクト（伐採造林一体作業によるコウヨウザンの低密度植栽試験地）の現場を見学し、獣害対策の難しさや確実な再造林の実現に向けた方向性についてディスカッションしました。
午後は、根羽村役場の見学の後、森林資源の新たな利用方法として根羽スギの繊維を使った布製品「KINOF（タオルや衣類など。詳細はNo.380にて掲載）」の紹介と今年度から取り組んでいるチップ生産の説明がありました。
その後、森林組合敷地内でチップ生産の見学を行い、今年度主伐を実施している現場の視察を行いました。
林業基本問題研究会はこれまで県外の先進地の視察をメインに行っていました。新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催であり、視察地も県内でしたが、根羽村森林組合では県内他の組合では実施していない取組みが多々あり、有意義な研修となりました。

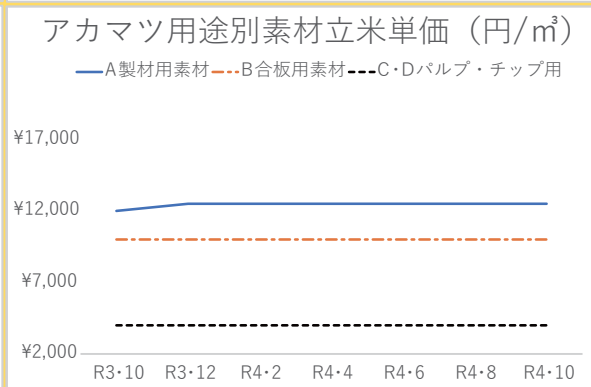
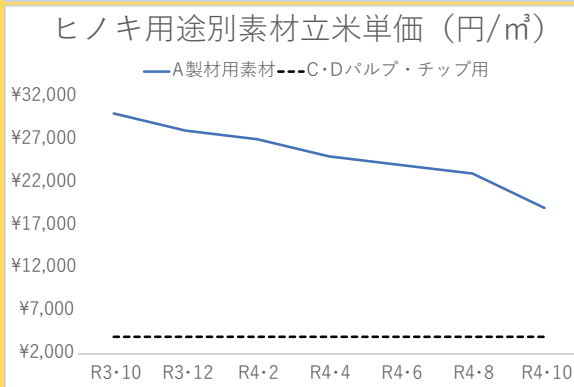
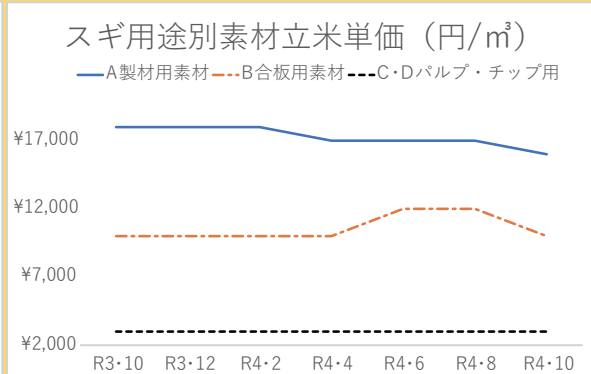
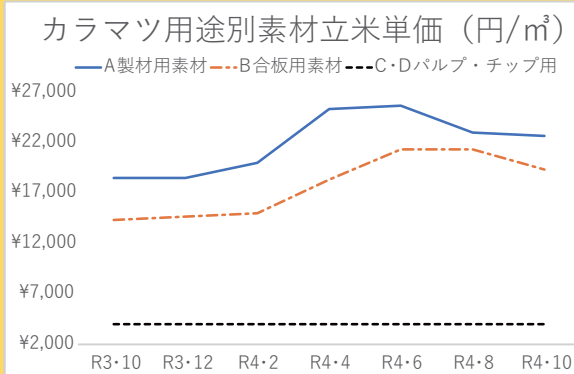
豊かな森を未来につなぐため、語らう

ワークで楽しく学ぶ！
チームで成果を上げる秘訣
長野県林業職員協会勉強会

2022年10月25日安曇野市のもくりゆう館で勉強会が開催され、25名の会員が参加しました。

全国各地の森林組合で経営診断を行っている(株)ピースマネジメント代表取締役の江越卓真氏を講師に、組織での仕事の効果的な進め方の秘訣をワークショップ形式で学びました。
思考スタイルを分析する「ハーマンモデル」を活用し、個々の価値観の違いを職場内で共有することや、組織づくりにおいて人材力、組織力、関係力の3要素が相互に関連することが大切であることなど、どの職場でも取り組める内容を研修ゲームを通して楽しく学ぶことができました。

JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

スギ・カラマツ・ヒノキの製材・合板向け丸太は価格を下げ動きも鈍化しています。アカマツは秋冬に向けて需要期を迎えていますが、価格は横ばいです。広葉樹は変わらず良材に応札活発で11月の記念市に向け期待が寄せられています。

また12月に納市、1月に初市と特別市が続きますので、これから伐採または出材を計画されている方は各木材センターにご相談下さい。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得し、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

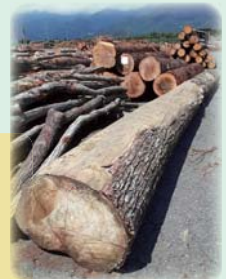
※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくをお願いします。

ちょっと木になるハナシ

～様々な用途で使われる木～

再生可能で加工もしやすいことから、木材は身近なものや特殊な用途まで古くから使われてきました。木材センターに出品される木も、建築材料や家具、紙の原料といった基本的な用途のほかに、様々な用途で流通されています。

少しご紹介するとエンジュやさくらなど木目が美しい木はギターのボディに使われたり、軽量のサワグルミはラケットのグリップに使われています。また、スギを原料に改質リグニンというプラスチックに替わる新素材が開発されており、利用拡大が期待されています。まだまだ世の中に木材が活躍できるモノがあるかもしれません。Let's ウッドチェンジ！



▲以前、中信木材センターに出品されたサワグルミ



長野県森連

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪